

日本公法学会 公募セッションレジュメ
2013:10/12・於 立命館大学

「美濃部親子文庫」と美濃部研究会について

美濃部研究会会長 ^{みや}宮 ^{さき}先 ^{かず}一 ^{まさ}勝

天皇機関説で有名な憲法学者の美濃部達吉博士とその御子息で、経済学者で東京都知事でもあった美濃部亮吉博士の貴重な著書、資料などが「美濃部親子文庫」として高砂市高砂町の高砂公民館の図書室で保存され、一般に公開されています。高砂町は、美濃部達吉博士生誕の地であり、博士の事績を記念するため、その蔵書150点が遺族から寄贈され、昭和33年に高砂町内の高砂市立図書館に開設されました。私も中学生の頃、図書館長の許可を得て大事に保管されている蔵書を見せていただいた記憶があります。

その後、図書館は市内曾根町に移設されましたが、同文庫は、博士ゆかりの高砂町内に残すべく現在の高砂公民館3階の図書室に移されました。美濃部亮吉博士逝去後の昭和60年には、遺族から同博士の蔵書や東京都知事時代のスクラップ、資料等641点が寄贈され、文庫の名称も「美濃部親子文庫」に改められました。更に平成4年には、亮吉博士の遺族から達吉博士とその妻民子氏関係の書簡類等の資料が段ボール一箱に詰められて寄贈されました。

私は、学生時代に憲法学を専攻し、美濃部憲法学には人一倍興味を持ち親子文庫に足を運んでいましたので、当時の公民館長からその資料を見せていただき大変驚きました。高砂市に貴重な資料の整理保存の必要性を提案するとともに自主的にその整理のお手伝いをする事になりました。その結果、項目別にファイル4冊（①欧米出張中の達吉博士から民子夫人宛の葉書、②民子夫人宛などその他の書簡、③「天皇機関説」に対する右翼からの抗議書、決議書等、④その他の資料）に分類して原本、コピーの複本が保存されています。資料の中には、昭和10年頃の達吉博士の天皇機関説に対する脅迫状22通や作家野上弥生子氏から民子夫人あての39通も含まれており、現代史研究者から第一級の史料として注目されています。

このような関わりから、私は、美濃部親子文庫を「高砂の宝もの」として位置づけ、その調査、研究を行い、その成果を市民に公表し、広く高砂文化の発展に寄与することを目的として、平成8年に「美濃部研究会」を立ち上げました。そして、貴重な書簡等資料の解説、研究を進めるとともに、平成15年には「美濃部達吉博士関係書簡等目録」を共編で300部自費出版し、県下公立図書館等関係機関にも配布しました。

美濃部親子文庫の蔵書や書簡等資料は、平成20年暮れにNHKの取材を受け、翌年5月3日の憲法記念日に「ジャパンレビュー」第2回の「天皇と憲法」で美濃部達吉博士が特集され放映されました。これらは、明治憲法下での国家権力の乱用に対する抵抗の精神を貫き通した達吉博士の遺徳をしのぶ貴重な資料であり、今後、美濃部研究会としても更に検証を重ねて行くつもりです。

美濃部研究会は現在会員が25名で、高砂公民館の登録団体として、原則として月1回研究会を開催しています。これまで、会員や関係専門家を講師として、「天皇機関説論争と天皇機関説事件」、「野上弥生子と民子夫人」、「美濃部家のルーツ」、「美濃部家の墓碑銘」、「高砂郷学申義堂」等について学習するとともに、「親子文庫の虫干し講習会」では、県立図書館の資料課長さんから、単に貴重な資料を保存するだけでなく、日本の「憲法文庫」として活用し、発展させていかなければならないとご教示いただきました。

平成20年5月には、達吉博士没後60年記念フォーラムを開催し、市内外からの約80名の参加者とその遺徳をしのびました。また、岡山県津山市の洋学資料館へ研修バス旅行を実施し、民子夫人の親元の箕作一族や旧津山藩の洋学者らの資料が展示されているリニューアルされた館内を案内され、郷土の偉人を讃える津山市の文化行政の素晴らしさには感動しました。

その後、美濃部研究会では、書簡等資料のマイクロフィルム化、達吉博士生家跡の記念碑建立に尽力するとともに、長年の懸案課題であった高砂市による「申義堂」復元に伴う「申義堂を考える」フォーラムを開催しました。最近では、美濃部家父祖墓碑復元とそれに伴う「憲法講演会」を開催し、その講演録を発行（平成25年3月）するとともに、「憲法改正と美濃部達吉」のテーマで勉強会を開催しました。また、ご遺族から「美濃部家の宝」として大事にされていた美濃部民子氏の油絵、津田青楓の扁額や大内兵衛氏の漢詩額が高砂市に寄贈され、親子文庫に掲げられています。

今年は達吉博士生誕140周年を迎えますので、美濃部研究会のホームページを作成して全国的に発信し、また、高砂市と協賛のイベント（高砂・美濃部家ルーツツアー）を開催するとともに、「美濃部達吉博士略年譜、著作年表」を改訂して「生誕140年記念美濃部達吉博士年譜」を発行する予定です。

地域の文化、伝統を継承し発展させていくことは、地味で根気が要ることだと思いますが、美濃部研究会では、美濃部親子文庫を核として「高砂文化」を全国的に発信し、その発展に寄与していきたいと考えています。

なお、美濃部研究会の会則は別添のとおりですが、その目的、趣旨に賛同してご入会いただければ幸いです。